

マダニ感染症について

：重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスは、2009年、中国河北・河南省で発生したダニ媒介感染症の原因ウイルスとして特定された新しい疾患です。潜伏期間は6日から14日、臨床症状は38度以上の発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）、検査は血小板減少、白血球減少、電解質異常などの変化が知られています。

我が国でも、同じような状況で発症した重症熱性血小板減少症候群と疑われた症例について調査したところ、2013年山口県の成人1名がSFTSウイルスを原因とし死亡していたことが確認されました。その後、死者は8名（愛媛、宮崎、広島、長崎、佐賀、鹿児島）となり、感染者地域はさらに高知県でも確認されました。

しかし、中国のSFTSウイルスと日本のSFTSウイルスは、遺伝子が似ており同一種であるが多少の違いから全く同じものではないと考えられています。



国立感染症研究所提供

感染経路

SFTSウイルスはフタトゲチマダニやオウシマダニが宿主と考えられおり、それらに咬まれることで感染すると考えられています。また、感染した患者の血液や体液との接触によるヒト-ヒト感染も報告されています。

また、中国江蘇省の疫学調査では、ヤギ、ウシ、イヌ、ブタ、ニワトリからも抗体が検出されており、ヒト以外に小動物への感染も確認されていますが、感染した動物からの接触感染は確認されていません。

分布と予防

現在患者の発生しているのは宮崎県、広島県、長崎県、佐賀県、鹿児島県、山口県、愛媛県、高知県で、九州地方、中国地方および四国地域です。マダニは日本国内で広く分布していますので、実際は広く存在するウイルスなのかもしれません。

野山や山林などにはマダニが生息しており感染しやすくなります。農作業、山菜取りなどには次のことに注意してください。

- ・ 肌を露出しない。 長袖、長ズボン、手袋などを着用する。
- ・ 肌の露出には防虫スプレーを使用する。
- ・ 草むらや地面に直接座ったり、衣類をおいたりしない。
- ・ 野山や草むらに入ったら、入浴し下着、服を着替える。
- ・ 咬み付いているダニを見つけたら、医療機関で対応してください（決して、つぶさないこと）。